

猪熊弦一郎 洋画家。新しいものに挑戦し続けて多くの人の心を捉え、郷里の美術館は現在も活発。大の猫好きでもあった。

いのくまげんいちろう

教科書疑獄・1902 = 香川県高松市で生まれ、丸亀市に転居。

日露戦争終・1905 = 3歳:

丸亀東幼稚園，

城北小学校に通う。

__小学校時から絵がうまく、学校の美術の授業で教師の代わりをするほどであった。

大逆事件判決1911 = **9歳**:

明治天皇没・1912 = 10歳

大暴落・・・1920 = **18歳**:

原敬首相暗殺1921 = 19歳: 丸亀中学校(現・香川県立丸亀高等学校)卒業するまで、__少年時代を香川県丸亀で過ごす。

水平社結成・1922 = 20歳: __東京美術学校(現・東京藝術大学)洋画科に入学し、藤島武二に師事するが、のち、中退、

この間結婚した文子は目鼻立ちのくっきりした美人で、妻をモデルに、多くの絵を描き、

円本時代始・1926 = 24歳: __帝国美術院第7回美術展覧会に出品した「婦人像」が初入選、

世界恐慌・1929 = **27歳**: __同第10回に、「座像」が、

満州事変・1931 = 29歳:

国際連盟脱退1933 = 31歳: この年、初めて猫の絵を描くが、あくまでも、主役はモデルになった妻文(FUMI)であった。__同第14回に、「**画室**」が特選になるなどして、帝展無鑑査になるが、

二二六事件・1936 = 34歳: __帝展改組を契機に、志を同じくする小磯良平ら七人と新制作派協会を結成し、以後、発表の舞台とする。

日中戦争始・1937 = 35歳:

健保+総動員1938 = **36歳**: __フランスに遊学し、アンリ・マティスの指導を受ける。マティスに自分の絵の批評を請うと、「お前の絵はうますぎる」と言われ、これを自分の画風が出来ていないと捉えて愕然とする。

第二次大戦始1939 = 37歳: 第二次世界大戦が勃発し、

大政翼賛会・1940 = 38歳: __最後の避難船となった白山丸で帰国。

日米開戦・1941 = 39歳: 中国に文化視察として派遣され、

・・・1942 = 40歳: 従軍画家として、フィリピン、

創価学会検挙1943 = 41歳: ビルマに戦地へ赴いた。

年金+総武装1944 = 42歳: __陸軍美術展で、旧日本軍が、タイとミャンマーを結ぶべく泰緬鉄道建設する戦争画「__方面鉄道建設」を発表などする間、自らの画風を模索する歳月を過ごす。マティスの影響からなかなか抜け出せないでいる一方、猫好きの妻の影響を受け、猫好きで有名な大佛次郎からベルシャ猫の子猫を譲り受けて猫を飼い始めると、自らも、大の猫好きになり、庭に迷い込んできた三毛猫やその子供猫も手放せず、多い時は、10匹以上になり、戦時中から戦後にかけては盛んに猫の絵を描き、疎開時にも、2匹の猫を連れていった。

敗戦・・・1945 = 43歳: __終戦後、田園調布純粋美術研究室を発足し、後進の指導にあたる。猫の世話は、この年弟子入りしてきた荒井茂雄にまかせることになる。

新憲法公布・1946 = 44歳: 大佛次郎が、今なお愛される童話「スイッチョ猫」を{こども朝日}に発表した際には、その挿絵を描いた。

新憲法施行・1947 = **45歳**:

極東裁判決・1948 = 46歳: __{小説新潮}の表紙絵を描き、以後、40年続くことになる。

三大事件・1949 = 47歳: 三島由紀夫の「仮面の告白」の装幀、

朝鮮戦争始・1950 = 48歳: 白地に赤で有名な三越の包装紙「華ひらく」のデザインを行い、時としては破格の報酬でも話題になった。この時、デザイン画を受け取りに赴いたのが当時三越に勤務していたやなせたかしである。

独立回復・1951 = 49歳: __国鉄上野駅に壁画「自由」を制作。また、慶應義塾大学大学ホールに壁画「デモクラシー」、名古屋丸栄ホテルホールに壁画「愛の誕生」と合わせて、第2回毎日美術賞を受賞。

メーデー事件・1952 = 50歳: この年の「猫と食卓」など、猫の絵は全て創作である。

55年体制始・1955 = 53歳: 三島由紀夫の「純白の夜」の装幀。*再度パリでの勉強を目指し日本を発つが、途中滞在したニューヨークに惹かれてそのまま留まり、以後約20年間、同地で制作する。以後、猫の絵も途絶え、この時期から画風は一気に抽象の世界に移っていった。また、この時期は、マーク・ロスコ、イサム・ノグチ、ジョン・ケージ、ジャスパー・ジョーンズなどさまざまな著名人と交友関係を深めたことでも知られる。

国連加盟・1956 = **54歳**:

インスタラメン・1958 = 56歳: この年竣工した丹下健三設計の香川県庁舎の壁画も制作。

安保闘争・1960 = 58歳:

大学紛争始・1965 = **63歳**:

石油ショック1973 = 71歳: __日本に一時帰国中、脳血栓で倒れ、

角栄金脈辞任1974 = **72歳**:

ケアンズ事件1975 = 73歳: *ニューヨークを引き払い、以後、冬の間をハワイで、その他の季節は東京で制作するようになる。

革新大敗北・1979 = 77歳: __日本経済新聞の「私の履歴書」連載、このなかで、「自分が一番好きなことを、二十歳の時から五十七年の間続けて描いている。美術学校であれば十数回卒業したことになる。それでいてまだこれでいいと思う作品はできていないように思う。」と述べ、没後に、MIMOCAから刊行された単行本「私の履歴書 猪熊弦一郎」の帯には、「絵には勇気がある」と記される。

貿易摩擦問題1980 = 78歳: 勲三等瑞宝章。

ドイツニラット1983 = **81歳**:

ジャンボ機墜落1985 = 83歳: __この頃から、スケッチブックやメモ帳に、ふたたび、猫の絵が姿を現すようになり、最愛の妻文子が亡くなると、一枚の絵「葬儀の日」を描くが、その死を受け入れられなかったのか、妻の顔は別人のようで、その周りをたくさんの猫がとり囲んでいるものであった。

リクルート事件・1988 = 86歳: 東京地下鉄半蔵門線三越前駅壁画パネル「21世紀をめざす創造の街」。__丸亀市へ作品1000点を寄贈し、

ソ連崩壊・1991 = 89歳: 丸亀市名誉市民。*世界的な建築家谷口吉生の設計による丸亀市猪熊弦一郎現代美術館(MIMOCA)開館。

バブル崩壊・1992 = **90歳**: __所有するすべての作品等を丸亀市に寄贈する趣旨の文書提出。以降、順次MIMOCAに搬入。

55年体制終・1993 = 91歳: {祝90祭猪熊弦一郎展}で第34回毎日芸術賞までもなく、東京で没した。翌々年、MIMOCAで開催する展覧会、イベントなどの事業を通して、猪熊芸術及び国内外の現代美術に親しむことを目的に、猪熊弦一郎が考案した名の「MIMOCA FRIEND(ミモカフレンド)」が発足し、近年、再評価されるようになって、「猪熊弦一郎のおもちゃ箱」「マチスのみかた」「ねこたち」など、次々と刊行されている。

Wikipedia「猪熊弦一郎」、ホームページ「丸亀市猪熊弦一郎現代美術館」、同館による「猫画集 ねこたち」、